

東日本大震災に係わる 保健師等の派遣に参加して



地域包括支援センター
常田 徳子
Noriko Tokida

がれきの山々、壊れた家や車、ほこりっぽい空気、壊滅的な様子は想像を超えるものすごいものでした。

長野県は、岩手県の支援をしており今回、飯山市からの2名を含む長野県チーム（保健師・栄養士・連絡員）総勢7人は、5月8日から13日まで岩手県陸前高田市へ支援に行きました。保健師の活動は、①避難所の健康相談②健康・生活調査の訪問③訪問調査の結果、継続的支援が必要な人への訪問です。

避難所では「遠くから良く来てくれた」と感謝され、逆に元気をいただきました。個別訪問では、心の支援の必要や細やかに継続的な関わりが必要を感じました。

ある避難所の区長さんが「避難訓練に参加していた人は助かったんだよ」と。日頃からの訓練や準備の必要性を痛感しました。また、「地域の力」も大切です。普段からお互いに声をかけ合い、見守



訪れた避難場所では、皆さんが温かい笑顔で迎えてくれた

り、助け合うことが緊急時には大きな力となります。内外から寄せられる支援の力と、どのよう連携を取っていくのかも考えておく必要があります。陸前高田市をはじめ被災地では、継続的支援がまだまだ必要であり、長期的・継続的な支援体制づくりが大きな課題だと思いました。

最後に、貴重な体験をさせていただいたことに感謝するとともに、亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様の1日も早い復興を願っています。

岩手県山田町社協 災害支援に関わって



飯山市社会福祉協議会
地域福祉係
小澤 稔
Minoru Ozawa

この度の東日本大震災により、岩手県内沿岸部の社会福祉協議会は甚大な被害を受け、岩手県内社会福祉協議会だけでは救援活動が十分にできないことから、全国社会福祉協議会から長野県社会福祉協議会を通じて、災害救援に関する人員派遣の依頼があり、5月9日から1週間の期間で、長野県内社協職員、静岡県内社協職員と連携しながら今回支援活動に行かせていただきました。

支援活動に入った岩手県山田町は、人口約1万8千人の町で、災害により死者・行方不明者が約1千名という未曾有の大惨事でした。

山田町社会福祉協議会は、職員の人的・建物等の被害はありませんでしたが、家族を亡くされたり、家を津波に流され失った職員が多くいま

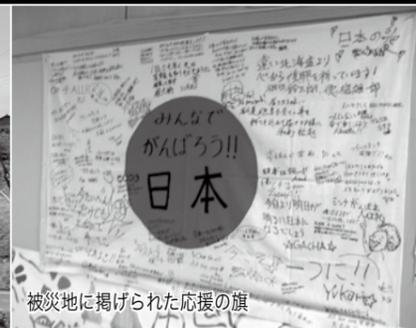
した。

実際の支援業務は、ボランティア活動者の受付窓口である、『山田町災害ボランティアセンター』の運営業務や山田町社会福祉協議会の今後につながる社協事業の計画・実施や、被災された住民の方から、お話を伺いしながら今後必要となるニーズの調査等に関わらせていただきました。多くの団体・個人・企業等の皆様が復興に向けて協力していく場を共有できたことはとても貴重な経験となりました。

当社会福祉協議会のスローガン『誰もが住みなれた場所自分らしく安心して暮らせる福祉のまちづくり』の実現に向けて、改めて平常時からあらゆる災害時の事態を想定しながら地域福祉活動を進めていく必要性を感じました。



懸命の復興作業により、短期間のうちに建設が進む仮設住宅



被災地に掲げられた応援の旗



眼前に広がった被災地の光景は、復興までの長い道のりを思わせた



山田町災害ボランティアセンターで支援活動を行う全国からのボランティア



河川で実施された行方不明者の捜索活動

ごく普通の生活の大切さを実感 できることから協力を

東日本大震災に伴う津波により、壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市へ、長野県派遣保健師活動の連絡員として活動してきました。

今回の活動では、保健師が行う健康・生活調査や戸別訪問、避難所健康相談等の補助などを行いました。現地の皆さんは被災生活のなか、私たちが暖かく迎えてくださり、話してくださったお話に逆にこちらが元気づけられる場面もありました。

テレビ新聞等の報道により、ある程度の被害状況は承知しているつもりでしたが、実際の目当たりにした光景は想像を絶するもので、私たちの飯山と同じように穏やか

だった元の姿に戻るまでには、かなりの時間と労力を要することが想像されました。

ただ、活動していた当時も、全国より様々な支援活動や復旧活動が行われており、派遣初日には土台だけであった仮設住宅が派遣終盤には全て完成した状況や仮設店舗が営業をしている光景をみると、一歩一歩復興への道を歩み始めている事を実感しました。

今回の活動を通じ、普通に生活している自分が、実は多くの助けを借りて生活してきたことに気づかされ、飯山で生活しながらも、被災者の皆さんが普通の生活を取り戻せるよう、できることから協力したいと思っています。



新幹線駅周辺整備課
浦野 昭彦
Akihiko Urano

災害派遣に参加して

自分は飯山市の職員として勤務しながら、陸上自衛隊の即応予備自衛官として主に休日を利用して訓練に励んでいます。

この度の東北地方太平洋沖地震により防衛大臣より災害派遣命令が発令されたため、4月20日から29日の間、福島県南相馬市において、所属部隊である陸上自衛隊第12旅団第48普通科連隊第1中隊の自衛官として、行方不明者の捜索活動等の任務に従事してきました。現場の状況は新聞・テレビ等での報道のとおりであり、ガレキなどの撤去は数年で何とかなるような気がしますが、家が基礎ごと無くなっている住宅を目の当たりにして、家財や仕事など一



重機の入れない場所では、人力によるガレキの撤去作業が行われた

切を無くされた被災者の方の今後の生活を想うと、先の見えない長い道のりがスタートしたのだなと感じ、身の引きしまる思いであります。

飯山に帰り日々の生活に戻った今、自分にできる事は職場と家で節電に取り組むなど微力ですが、東北地方や栄村、日本全体に一日でも早く再び笑顔が訪れんことを祈っています。



スポーツ生涯学習課
池田 雄一
Yuuichi Ikeda